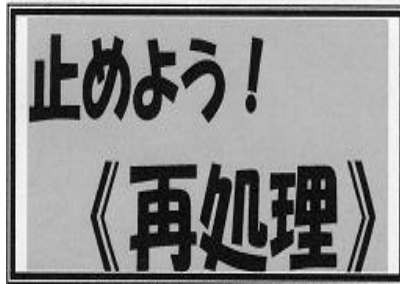


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会** (略称) **三陸の海・岩手の会**
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ 《再処理 / 岩手の環境》
http://sanriku.my.coocan.jp/
《本紙の全バックナンバー掲載》



<天恵の海>
2021年(令和3年)
10月16日
第225号 (MK 責任編集)
編集事務局 S. Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

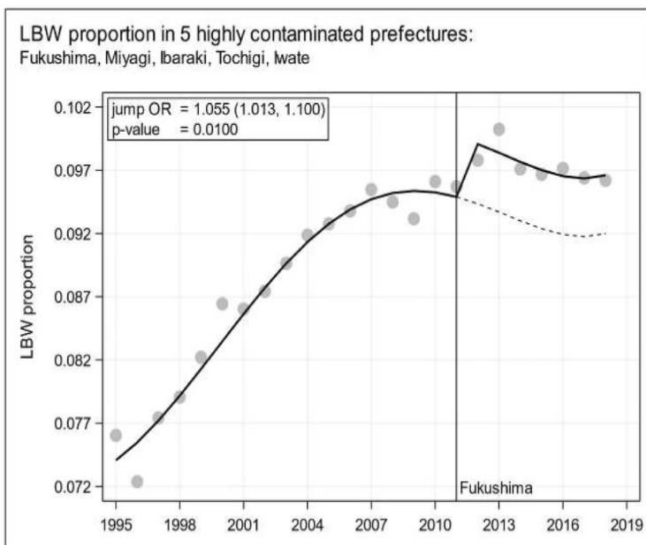
3.11 の健康影響をグラフに見る :

小児甲状腺がん以外の疾患

① 低体重児、② 周産期乳児死亡、③ 精巣異常、④ 胃がん

3.11 以後 増加している！

低体重児 (2500 グラム以下) の出生数の割合
高汚染 5 県 (福島、宮城、茨城、栃木、岩手)

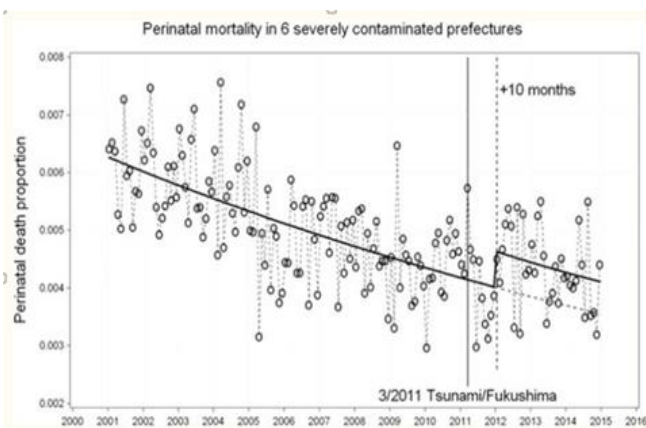


二〇一一年三月の福島第一原発の事故後、小児甲状腺がんが多発していることとその原因について本紙でも何回か取りあげてきました。
本号では、小児甲状腺がん以外の健康影響に関する四つの論文を取り上げます。各論文から典型的なグラフを一つピックアップし、簡単な解説を試みました。詳しくは、本号の最後に載せた典拠論文を直接ご覧ください。

① 事故後、低体重児の割合が統計的に有意に急増！

左のグラフは、福島第一原発の事故で放出された放射性物質で強く汚染された五つの県での出生時の体重が二千五百グラム以下の低体重児の出生数の割合の年次変化を示したものです。図中の曲線は、測定点(黒丸)のベスト・フィット曲線で

周産期死亡率の年次変化
高汚染六県
(福島、群馬、茨城、岩手、宮城、栃木)



す。
二〇一一年三月の福島第一原発の事故後に、低体重児の出生数の割合が突然ジャンプしていることが分かります。これは、統計的に有意なジャンプです。
右の説明や以下の説明に出てくる「統計的に有意」というのは、簡単に言うと、実際に測定された結果が偶然や誤差ではない事を意味します。

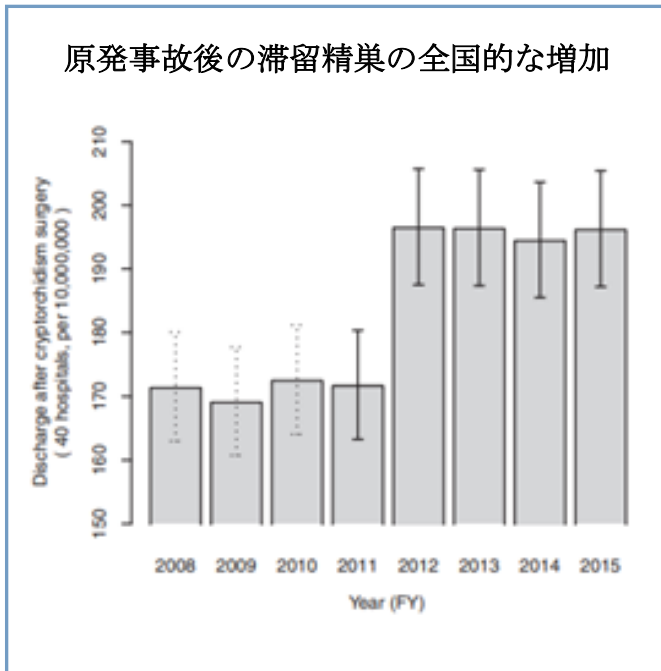
② 高汚染六県の周産期死亡率が事故後急増！

左のグラフは、放射能による汚染が酷かった六県の周産期乳児(妊娠十二週から生後七日まで)の死亡率の年次変化を示しています。
乳児死亡率が二〇一二年に急増ジャンプしてきます。これは統計的に有意なジャンプです。このグラフの様な周産

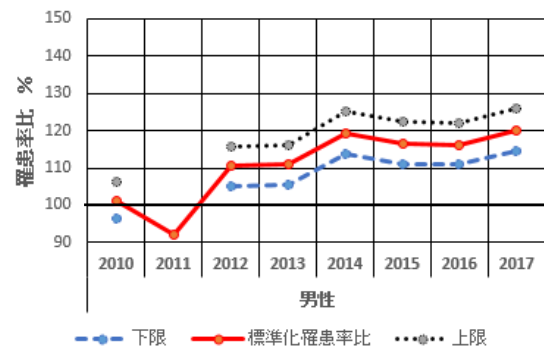
期死亡率のジャンプは、一九八六年のチェルノブイリ原発事故後にも、当時の西ドイツで確認されています。

③原発事故後に
滞留精巣が
全国的に増加！

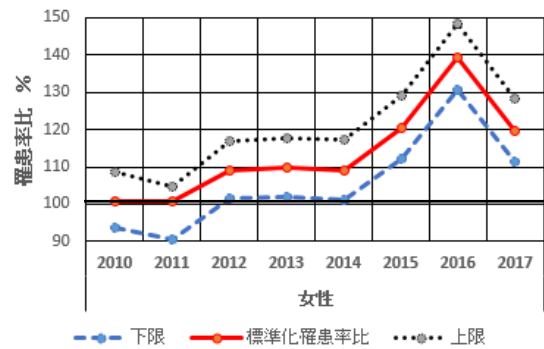
左のグラフは、滞留精巣（停留率）の発生率の年次変化を示しています。二〇〇八年～二〇一五年



福島県胃がん 標準化罹患率比の年次変化 (男性)



(女性)



年の滞留精巣（一千万件当たりの術後退院数…全国の四〇病院）が福島原発事故後に急増していることが分かります。滞留精巣（停留率）とは、精巣が出生時に正常な位置（陰嚢内に位置しない状態）のことで、新生児の五％の男児に一方または両方の滞留精巣が認められるとのこと。この二〇一二年以降の滞留精巣の発生率の増加は、福島県に限られたものではなく全国的な結果であることに注意が必要。

④福島県民の胃がんの罹患率は全国平均に比べて高い！

右のグラフは、福島県の胃がんの「標準化罹患率比」の年次変化を編集事務局でグラフ化したものです。「標準化罹患率比」とは、罹患率の全国平均を一〇〇％としてそれに対し福島県が何％を示します。直線の折れ線が標準化罹患率比で、二本の点線はそれぞれ標準化罹患率比の値の九十五％信頼区

典拠論文：

- ① Spatiotemporal association of low birth weight with Cs-137 deposition at the prefecture level in Japan after the Fukushima nuclear power plant accidents: an analytical-ecologic epidemiological study, Hagen Scherb & Keiji Hayashi, Environmental Health, Vol.19, No. 82 (2020) <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/32646457/>
- ② Increases in perinatal mortality in prefectures contaminated by the Fukushima nuclear power plant accident in Japan, A spatially stratified longitudinal study, Hagen Heinrich Scherb, Dr rer nat Dipl-Math,a,* Kuniyoshi Mori, MD,b and Keiji Hayashi, MDc [Increases in perinatal mortality in prefectures contaminated by the Fukushima nuclear power plant accident in Japan: A spatially stratified longitudinal study - PubMed \(nih.gov\)](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/32646457/)
- ③ Nationwide Increase in Cryptorchidism After the Fukushima Nuclear Accident Kaori Murase, Joe Murase, Koji Machidori, Kentaro Mizuno, Yutaro Hayashi, and Kenjiro Kohri, Health Services Research, Vol.118, p.65, Aug. 2018 [Nationwide Increase in Cryptorchidism After the Fukushima Nuclear Accident - Urology \(goldjournal.net\)](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/32646457/)
- ④ もはや疑えない福島での「がん多発」、明石昇二郎、週刊金曜日、p.20, 1295, 9/11, 2020。編集事務局で、p.22の表2をグラフ化した。 <http://www.kinyobi.co.jp>

間の上限と下限を示します。下限が一〇〇％を超える統計的に有意といふことになりません。男女とも下限が二〇一二年以降一〇〇％を超えています。すなわち、福島県民の胃がん罹患率は全国平均よりも統計的に有意に高いと言えます。その原因は、二〇一一年三月一日の大地震・津波・原発事故、そして

てその後の避難生活・生活再建等々によるストレスと推測されます。終わりに…福島第一原発事故や地震・津波による健康への影響は、ここで取り上げたもの以外にも沢山あると思われ、原発事故の影響をなかつたことにすることは絶対に許されません。